

# 広島県鉄骨工業会など 鋼構造セミナー開催

## 鉄骨製作の疑問や要望話し合う

日本建築学会中国支部、広島県鉄骨工業会、日本建築構造技術者協会中国支部は12日、広島市内で第16回鋼構造セミナーを開催。鉄骨



鉄骨加工業者と設計者が一堂に会し聴講

加工業者と設計者が一堂に会しながら、オンラインを含め50人以上が聴講した。今回のテーマは「鉄骨製作における疑問点と要望」。広島県鉄骨工業会青年部会と日本建築構造技術者協会中国支部青年部会は鉄骨製作・施工に関する問題点の勉強会の中で互

いに疑問や要望を出し合い協議し、回ごとに協議録を作成した。この内容は設計・製作どちらにとっても興味ある内容であることから、本セミナーでその成果を発表した。

セミナーでは通シダイアグラムの段差や柱の絞り、屋根面の接合部についてなど、工場

で柱に大梁を取り付けるブラケット形式と現場で柱に大梁を取り付けるノンブラケットの比較、溶融垂鉛めっき関連の注意点といった各設問の質疑に対し、主催

団体のパネリストが回答した。広島県鉄骨工業会の光村圭介青年部会長（ミツヤ工業常務）は「鉄骨製作の流れを示して作業の遅延を招く要因を挙げながら、「最初に開口やスリーブなどが決まっていることで、製作の工程が大幅に変わってくる」と指摘。オブザーバー参加の山本泰徳広島県鉄骨工業会理事長（ステントス社長）は「鉄骨加工業者にとって重要なのは構造図。現実には意匠図と構造図は大体異なる。この場には、構造関係者の方には、この世で存在する材料での設計をお願いしたい」と要望。現在では設計から鉄骨などの加工、現場施工まで一貫

して3次元データで情報共有できるBIMが主流となっていることに、設計者にも認識を強めてほしいと伝えた。